

会 議 名	第9回港区高校生世代の居場所づくりに関する検討委員会
開 催 日 時	令和7年3月7日（金）18時～20時
開 催 場 所	港区役所 9階 915会議室
委 員	（出席者） 文教大学人間科学部人間科学科准教授 青山 鉄兵 公益財団法人児童育成協会健全育成事業部部長 佐野 真一 港区青少年委員会会長 芝 耕太郎 日本女子大学 匿名希望 私立広尾学園高等学校 遠山 夏町 公益社団法人東京青年会議所港区委員会委員長 橋本 惇巨 私立広尾学園高等学校 福田 有佳 私立大妻高等学校 松下 向日葵 認定NPO法人3keys 代表理事 森山 誉恵 都立六本木高等学校教員 吉谷 健也 子ども家庭支援部長 中島 博子 （欠席者） 都立雪谷高等学校 石橋 哲也 私立広尾学園高等学校 廣實 真仁
事 務 局	子ども家庭支援部子ども若者支援課
傍 聴 人	2名
会 議 次 第	<開会> 1 高校生世代の居場所づくりに関する検討委員会報告書（案）について 2 今後のスケジュールについて 3 事務局からの連絡事項 <閉会>
配 付 資 料	資料1 高校生世代の居場所づくりに関する検討委員会報告書（案） 資料2 高校生世代の居場所づくりスケジュール案（4月開設）令和7年3月7日現在
会議の結果及び主要な発言	
委員長	<開会> 第9回港区高校生世代の居場所づくりに関する検討委員会を開催する。今回は全体会議となり、11か月、延べ13回実施となった検討会議の最後になる。それでは次第に沿って進める。
委員長	1 高校生世代の居場所づくりに関する検討委員会報告書（案）について はじめに、「高校生世代の居場所づくりに関する検討委員会報告書（案）について」から始める。こちらは第8回検討委員会で各委員からの意見を踏まえた内容にある。まず、事務局から説明をお願いしたい。
事務局 委員長	（資料説明） 報告書案について、情報量が多いため3つに分けて話を進める。まずは検討委員会設置の背景・概要・居場所ビジョンのところで、何か追加したい意見や質問

	があればお願いしたい。
委員 I	実態調査の結果について、居場所や相談相手のいない人は、「自己肯定感や孤独感が低い」と記載されているが、「自己肯定感が低く、孤独感が高い」の誤りではないか。
事務局	そのように修正する。
委員 C	3 ページ目の中高生プラザに関するヒアリング調査の文中にある、「第 3 の大人」とは何か分かりにくい。第 1 が保護者、第 2 が教員、第 3 が我々ということか。
委員長	「第 3」は省き「大人」という言葉に換えて欲しい。また、ヒアリング調査は何人が回答した結果か記載すべきである。
事務局	「身近な大人」に換える。
委員 長	6 ページの目の運営方法については、ファシリテーターに関することを記載しても良いのではないか。
事務局	円滑な議論ができるよう、ファシリテーターを設置した旨を追記する。
委員 D	8 ページにある「高校生ではない高校生世代」という部分だが、「高等学校に在学していない高校生世代」という言い方が良いだろう。
委員 H	同ページに有識者の意見を入れる必要はあるのだろうか。本事業について深く知らない人にとって分かりにくいのでないか。
委員長	より詳細に説明を入れるべきである。他はいかがか。
委員 E	9 ページ目の「交流」「非交流」という曖昧な表現を「変更した」という部分だが、「書き方を変えた」の方が良さそうである。
委員長	「より明確な表現を用いることに決めた」と記載するのはいかがだろうか。
委員 F	同ページにある有識者の主な意見の中にある、「好きなことができる、必要なものが揃う、支援されるはどうか」の「どうか」とは内容を明確にしたいという意味か。
事務局	1 つ上の文「好きなことと必要なことは居場所としての機能では全く異なる」と繋げ、分かりやすい文章に修正する。
委員長	次に 10～17 ページの「ひとりで過ごせる居場所づくり」について、意見を聞きたい。
委員 G	二十歳以上は対象としない旨記載されているが、二十歳の人 cameたら対応するか。
事務局	最初は二十歳未満と考えていた。また、二十歳になる年度末までという議論もあった。しかし、そこまで細かく記載するか否かは悩ましい。
委員長	二十歳の人 cameたからと言って、追い返すという運用にはならない。二十歳までの人が利用できる、という以下や未満を使わない言い方にするのはいかがか。
事務局	二十歳程度という言い方に換える。
委員 E	年齢の下限は中学生という認識か。
委員 H	以前上限については議題にあがったものの結論には至らなかったと認識している。
事務局	議論の中では人と関わらない前提であれば、年齢が異なる人がいても気にならないのではないか、という話になった。また、下限については仮に小学生の高学年がきても受け入れる。
委員長	「主な利用者としては高校生世代を想定するが、居場所のない小中学生や二十歳未満の人など、高校生世代以外も利用可能である。」とする。
委員 D	3 つ意見がある。
	10 ページ目の「グラデーション」という言葉は主語がないため分かりにくい。
	11 ページの「ある程度人影を感じる」という言い方は怖いため、「他者の存在を感じる」などに換えてはいかがだろうか。
	12 ページの「家庭の機能が不要な人には違和感を覚える」という言葉はこの会議に参加していない人には伝わりにくいと思う。
委員長	「家庭の機能を提供されることにニーズがない」という意味だろう。

委員E 委員長	ターゲットではない人が離れていくためである。 主なターゲットは困窮度が高い人や気持ちの辛い人である一方で看板などにその旨は記載しない。だからといって主なターゲットでない人が多く来ることは想定していないので、違和感を出すことでそれを避ける。そこをポイントとしてしっかり明記しておく必要がある。
委員H 委員E	利用者がこの報告書を読んだらどう思うだろうか。 ターゲットと運用上の違和感を出す工夫については重要なことであるため、より目立つよう項目を分けるべきではないか。
委員長	施設に対する意図しないレッテルを貼られることを避けるためにも、表現を注意しつつ記載するべきだろう。他はいかがか。
委員H	不登校の子について、学校の時間に施設へ来たら学校に知らせるというのは、子どもの権利面を考慮するといかがなものだろうか。
委員G	学校はそのような子に対して指導しなくてはならないだろう。ただ、別にその子たちは悪いことをしているわけではない、ということをもっと広めていかなくてはならない。
委員長	管理の対象として子どもや若者をみるのではなく、1人の権利主体としてみるべきである。個人情報や権利を守るための配慮について有識者の意見を書き足しても良いだろう。
委員E	13 ページのまとめ部分について、「利用していることが知られにくいよう」というのは、友達に知られたくないということか。入る際のハードルを低くすることについて補足が必要である。
委員A	同ページの有識者の意見にある、「高校生世代が遊びに行く原宿」は偏見だと思う。居場所がない人はむしろ原宿に行かないのではないか。
委員長	高校生世代がいても違和感のないエリアや施設であるために、配慮が必要であるという表現が適切か。
委員F	原宿や表参道など具体的な地名の記載は必要か。また、高校生はどこにでもいると思うし、むしろ表参道に高校生は用がないと思う。
委員長 委員E 委員長	アクセスがよく、高校生がいても違和感がないエリアが良い。 「1階や2階が望ましい」という話は出たことがあっただろうか。 入りやすさが重要である。オフィスビルの場合は様子が分かりにくいので、配慮が必要であるという議論が、委員Eが欠席の会議であった。
委員E 委員長 委員C	低層階という言い方が望ましいだろう。 大型のオフィスビルの場合は入りやすさを考慮し、低層階にすると記載する。 14 ページの「学校に行けない高校生が」という文章について、中学生も行って良い施設なのだから「学校に行けない高校生世代が」に換えてはいかがか。
委員長 委員G 委員長 委員E	ニーズを考えると高校生であるし、文中の高校生という言葉は許容される。 定時制高校の生徒は昼間でも行ける。 日中に居場所がない、と記載するべきだろう。 周知方法についてだが、カウンセリングルームが望ましいという結論であったか。絞りすぎているように感じる。
委員長	「必要がある」ではなく「有効ではないか」という言い方はいかがか。あくまでアイデアの一つだという書き方をする。
委員E 委員H 委員長	SNS の広告に記載されていないが、結論として否定であったか。 規制が厳しくなりそうであるため、他の方法も確保する必要がある。 現時点では意見もあったので、SNS を活用することも記載して良いかもしれない。
事務局 委員H	SNS のターゲティング広告について記載することにする。 設備のイラストについて確認したい。自分の施設では相談スペースの利用率が低く、リラックススペースとキッチン、食事スペースの利用率が高い。それなのに相談スペースに「必要な機能」と記載されていることに疑問がある。また、キッチン、食事スペースとランドリースペースは違和感を出すために必要な設備で

事務局	あるため、これらがもしないとなると、中高生プラザに似てしまう。
委員H	キッチンやランドリースペースはなるべく設置したいが、面積の都合で難しいことも考えられる。
委員長	議論と現実問題は分けるべきであり、この報告書においてはキッチン、食事スペースとランドリースペースは違和感を出すために強調したい。
委員C	キッチン、食事スペースとランドリースペースの部分に記載されている「※居場所の面積や設備により実施を検討」の文言を削除する。
事務局	次に「中高生プラザの利活用の促進について」へ進む。何か意見はあるか。
委員長	「高校生タイムが18時から20時までと短い」というのはどこの施設の話か。
委員E	高校生世代委員が利用している子ども中高生プラザの話である。
事務局	中高生の利用を優先する時間という言い方の方が良いだろう。
委員長	20ページにある「0B・0G」というのはどの世代のことを指すのか。
委員F	大学生のことである。
委員長	かつて利用者であった人というイメージである。「0B・0G」という言い方はしなくて良いだろう。
委員H	21ページの連携とは、誰と誰が繋がっているのか。
委員長	先生と施設職員の繋がりである。組織間連携だけでなく個人で繋がっているというのが現場では重要である。
委員長	施設利用と居場所利用という表現の違いは分かりにくいかもしれない。
委員H	予約して施設を利用するか否かの違いか。
事務局	ダンススタジオを利用する人は利用目的が明確で、明確な目的なく居場所として立ち寄る利用者をイメージしている。
委員長	5章の頭に使い方に関する文言を入れる。利用目的が明確な人は、施設内の情報が分かるようにしないと利用してもらえない。
委員E	21ページのSNSについて、「InstagramやXは競争が激しい」、「SNSに力を入れることが必ずしも良いこととは限らない」この2つの文言の必要性が分からない。
委員長	SNSに力を入れず、口コミに力を入れた麻布子ども中高生プラザの利用率が高いことがこの文言を入れた背景である。
委員H	設備環境の方が重要で、SNSというツールに頼り過ぎないということである。
委員A	19ページの紙媒体の活用の部分だが、紙とはチラシのことか。
事務局	また、1か所だけ「Instagram」ではなく「インスタ」と表記されている部分が気になる。
委員D	チラシのことである。SNSと異なりアカウントで施設をフォローしていることがバレないですむ。
委員E	「インスタ」とカタカナ表記されている部分については修正する。
委員長	21ページの「誰かの居場所になることで誰かの居場所にならなくなる」は「ならなくなる」を「失われる」と言い換えると稚拙さがなくなる。
委員F	18ページのまとめ部分はまとめになっていないように感じる。
事務局	ここは削除する。
委員A	19ページの実施時期について、あくまで実体験であるから、時期を明確にしないで欲しい。
委員D	意図が伝わるように修正する。
委員E	部活に考慮することが分かれば良いだろう。
委員F	13ページの目立たせないような施設にするという部分だが、コンビニやカフェが目立つから、集客を目的としている施設は一緒にしない方が良いのではないか。
委員G	利用する際の心理的ハードルを下げる工夫が必要という書き方をする。
委員H	カフェはバズる可能性があるため一緒にすべきではない。また、コンビニとの導線といってもコンビニ内に入り口をつくる訳ではないし、意味が分かりにくい。

委員長	確かにバズって人気ビルになっては困る。高校生世代が来ていても不自然ではないという言い方に換えたい。
事務局	近くにコンビニはあるが、入口が分かりにくくなっているというイメージである。
委員長	今後の流れとして、全体を修正し、各委員で再チェックする。追加の意見があればメールで事務局に送って欲しい。
事務局	事務局から提案したい。議事録の文言や発言のあった内容の組み合わせでは、分かりにくい文章や表現が残ってしまうため、趣旨を変えない範囲で文章をつくらせて欲しい。
委員長	検討委員会として了承してよろしいか。 (「はい」という者あり)
委員長	では、各委員が再チェックする際に、その点も注意して確認することをお願いしたい。各委員が確認した後の最終的な決定は委員長預かりとする。
委員長	2 今後のスケジュールについて
事務局	次第2の「今後のスケジュールについて」事務局から説明をお願いしたい。 (資料説明)
委員長	特に質問や意見がなければ次へ進む。
委員長	3 事務局からの連絡事項
事務局	最後に、事務局から連絡事項をお願いしたい。 ひとりで過ごせる居場所の整備エリアについて、大門周辺で400㎡程度になる予定である。議会報告後、各委員にお知らせする。
委員長	これで最後になるため、各委員にも本検討委員会での議論や、まとまった取組など、感想を一言ずつお願いしたい。
佐野委員	交流型の施設を運営している身として、非交流型の居場所を検討することはとても勉強になった。高校生世代委員の意見が生きるよう、大人として実現していく責任を感じている。
芝委員	一番のハードルは対象者をいかに引っ張り出すかということ。公的に行うという面からも難しさがあり、今後もハードルが出てくるだろう。
匿名委員	無事に中身が決まりつつあり安心した。施設が完成した際はぜひ見学したい。
遠山委員	検討委員会は、真剣な場でありつつ、当事者が発言しやすい雰囲気にしてもらえてありがたい。子どもでなく大人でない立場で、周囲を幸せにすることに関わって貴重な体験をした。
橋本委員	普段事業を実施していると、どれだけインパクトを与えるかという面や費用対効果が重要であると感じている。その中で、費用対効果と遠い行政ならではの事業に関わったことは、今後自分の経験に生かせる。
福田副委員長	高校生の意見を反映してもらえし、学びも多かった。参加したことで、自らの人間的成長を皆から力添えしてもらえた。
松下委員	居場所があるから自殺が減るとは一概には言えない。しかし、この話し合いをしている事実を当事者が知るだけでも、これだけ真剣に議論する人がいると安心する人がいるだろう。自分もぜひ施設が完成したら見学をしたい。
森山委員	自分は、高校生世代の非交流の居場所を当事者の声を聞かずに立ち上げた。この会議では既知の事実を再確認し安心もできたし、新しい視点に立つこともできた。
吉谷委員	自分のこの会議における役割は、学校内で実際に起こっていることを伝えることであると考えていた。教員としていかに次へ繋げていくか、どのような役割があるか考えていきたい。
中島副委員長	仕事や学業がある中、皆さんに参加してもらえて感謝している。完成まで皆から意見を貰いながらつくっていききたい。引き続きよろしくお願いしたい。
青山委員長	事務局からも一言お願いしたい。

事務局	高校生世代委員の意見を聞いて、有識者委員の意見が変わる。その意見を聞いた高校生世代委員の意見もまた変わるというのを繰り返す会議であった。面白くもあり、着地点が見えないもので運営する側としては非常に難しかった。自分たちの使命は、皆さんからいただいた意見を形にすることである。ぜひそこまで一緒に見届けてもらいたい。
青山委員長	行政が主催する委員会に多く参加しているが、検討委員会の意見で施策の具体的な着地点が変わる。その裁量をここまで委ねられる委員会は例がなかった。 まさに、当事者の声を聞くということで、高校生世代と一緒に議論して作り上げるというのは面白かった。自分も港区の中高生であったため、恩返しになったのではと考えている。
委員長	それでは、他になれば、これにて港区高校生世代の居場所づくりに関する検討委員会を閉会する。 ＜閉会＞